

# 29年8月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 8月1日～ 29年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/8月	9月	10月
仕入 動向	国産材製材品	△ 18.8	0.0	0.0
	外材製材品	△ 6.3	△ 6.3	0.0
	構造用集成材	7.1	21.4	14.3
消費 動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 6.3	△ 6.3
	外材製材品	0.0	6.3	6.3
	構造用集成材	7.1	7.1	14.3
在庫 動向	国産材製材品	△ 18.8	△ 6.3	△ 6.3
	外材製材品	△ 12.5	6.3	6.3
	構造用集成材	0.0	21.4	7.1

・プレカット加工用部材の仕入動向は、国産材製材品は8月の減少から9月、10月は横ばいに。外材製材品は8月、9月の減少から10月は横ばいに。構造用集成材は3カ月連続増加。  
・消費動向は、国産材製材品は3カ月連続減少。外材製材品は8月の横ばいから9月、10月は増加に。構造用集成材は3カ月連続増加。  
・在庫動向は、国産材製材品は3カ月連続減少。外材製材品は8月の減少から9月、10月は増加に。構造用集成材は8月の横ばいから9月、10月は増加に。

### (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/8月	9月	10月
受注	7.1	7.1	21.4
加工	14.3	14.3	21.4
受注残	0.0	△ 7.1	7.1

・プレカット工場の受注動向は、受注、加工とも3カ月連続増加。受注残は8月の横ばいから9月は減少、10月は増加に。

## モニターからのコメント

### (加工用部材荷動き)

・外材製材品に値上りの話があり、引っ張られて国産材製材品も追随か。消費は、値上り前に部材を調達したいが、物件的には多くないため消費は低水準。在庫は、決算を控えて在庫調整の時期。構造用集成材は取扱いなし。

・翌月は仕入がやや増加するが、基本的には横ばい。消費は、当月構造用集成材がやや増加するが、他はあまり変化なし。在庫は、国産材・外材製材品とも横ばい。構造用集成材の在庫も翌々月からは安定する見通し。

・仕入は順調。

### (受注動向)

・低水準なれど天候に恵まれ予定通り消化中。

・受注・加工とも増加傾向になると思われる。ただし、受注残にまで影響を及ぼすまでには至らないと思う。

・お盆前後は仕事量が減少、9月以降に期待。